

授業科目名	文章の理解と表現Ⅱ		担当者	町田洋介			
			実務経験	企業で個別指導インストラクターとして勤務経験がある			
教科書	配付プリント	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	通年	必修	講義
30							
授業概要	アピール文、キャッチコピー、詩、物語などの様式をふまえた創作を行い、文章の魅力を高めるための技術を身につける。科目「文章の理解と表現Ⅰ」で学んだ客観的な文章表現と情感を大切に文章表現とを保育において有効活用することを目指す。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事実に基づいた説明を大切に文章、主観性・情感・間主観性を大切に文章を使い分けることができる ・理解語彙、使用語彙の幅を拡げ、自分の表現に活用することができる 						
評価方法	・期末の筆記試験 ・授業内で課す課題						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	発想力を磨く リストアップ ブレインストーミング マッピング			さまざまな思考の技法を用い、より柔軟で意外性のある発想を行う。			
2							
3							
4							
5	オノマトペを味わう 絵本のオノマトペ オノマトペで表す			オノマトペがどのように絵本で用いられているかを知り、身の回りの事象をオノマトペで表す。			
6							
7							
8	詩を味わう 詩の表現技法 世界の表現と拡大			詩の表現技法を知りその効果を学びながら味わい、詩を詠むことで広がる世界を楽しむ			
9							
10							
11							
12	商品名・広告・キャッチコピーから学ぶ ネーミングとその背景 さまざまな広告			企業が消費者の選択や購買行動を促すために練り出した商品名等の発想の面白さやわかりやすさを味わう			
13							
14							
15							
16	絵本を作る 絵本の構想 製作と製本			これまでに学習した表現技法を活かしながら、一つのテーマをもった絵本を製作する。			
17							
18							
19							
20							
21							

22		
23		
24		
25	<p>保育の場において使い分けたい文章と言葉遣い 安心感、信頼感、親近感につながる言葉とは？ 保護者向けのお便り、連絡帳、行事の案内、活動の紹介、依頼、お願い、記録、実践報告</p>	<p>保育者としての配慮をもちながら各種の文章を作成する。自分の文章の特徴を知り効果的に伝えるための注意点を探る。</p>
26		
27		
28		
29		
30		

授業科目名	子ども家庭支援の心理学		担当者	薄井啓子			
			実務経験	小中学校高校でスクールカウンセラーとして勤務経験がある			
教科書	『新基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	必修	講義
30							
授業概要	社会学的・歴史的に概観しつつ、家族の意義、機能、教育的な役割を理解する。また、家族の構成員を生涯発達の途上にある個人として捉えつつ、その心理的特性と発達課題をふまえ、関係性やシステムの持つ力、親と子の精神保健を理解する。						
学習到達目標	・生涯発達という考え方を理解する ・子どもの発達に家族と家庭が重要な役割を果たすことを理解する ・子育て家庭の現状と支援を理解する ・子どもの精神保健とその課題を理解する						
評価方法	受講姿勢、課題、期末試験を総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生涯発達における乳児期			初期発達の特徴と保育者の関わり			
2							
3	生涯発達における幼児期			幼児期全体の発達の特徴(認知、言語、社会性、自我を中心に)と保育者の関わり			
4							
5	生涯発達における学童期			学童期の発達の特徴、保育の見通し、以降のプロセス			
6							
7	生涯発達における青年期			青年期の発達の特徴(身体、対人関係を中心に)、青年期の問題行動			
8							
9	生涯発達における成人期・中年期			成人期・中年期のライフイベント、アイデンティティの再体制化			
10							
11	生涯発達における高齢期			高齢期における発達の特徴、社会状況			
12							
13	家庭・家族の意義と機能			家族・親族・世帯、定義と機能の変化			
14							
15	家族関係・親子関係の理解			家族ライフサイクル論、家族システム論、夫婦関係、親子関係、家族への支援			
16							
17	子育て経験と親としての育ち			親として育ちの過程にいる保護者、子育て支援			
18							
19	子育てを取り巻く社会的状況			晩婚化・非婚化、地域における切れ目のない子育て支援			
20							
21	ライフコースと仕事・子育て			男女のライフコースの歴史的変遷、性役割、子育て			

22	多様な家庭とその理解	の葛藤、育児ストレス
23	多様な家庭とその理解	家庭と家族の多様な姿、福祉領域との接点、多様性 に開かれるとは？
24		
25	特別な配慮を要する家庭	家族が抱える困難への理解、養育者のメンタルヘル ス
26		
27	子どもの生活・生育環境とその影響	家庭内の環境、家庭が置かれている環境、子どもに 及ぼす精神的影響
28		
29	子どものこころの健康にかかわる問題	こころの健康の危機と現れ
30		

授業科目名	子どもの食と栄養		担当者	和泉安希子			
			実務経験				
教科書	『子どもの食生活』ななみ書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	通年前期	必修	演習
60							
授業概要	子どもの発育、心身の健康と食との関連を理解する。食生活を栄養摂取のみならず健康な生活の基本と位置づけたうえで、保護者への支援を射程に入れた食育の意義、目的、内容を理解する。また、アレルギー等特別な配慮を要する子の食と栄養を理解する。						
学習到達目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を学ぶとともに、子どもの発育や発達 が乳幼児期からの食生活といかに密接な関連があるかを理解する。・食育の基本を理解するとともに、食育を とりまく様々な環境についても知り、子どもの成長と食育のかかわりを学ぶ。・保育士として子どもの身体状況 や栄養状態に応じた食生活の支援ができるよう、食生活・栄養の課題を明確にし、実際の生活に展開できる力 を身につける。						
評価方法	受講態度、課題や提出物、期末試験等の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ガイダンス			食生活チェックシートで、自身の食生活の問題点を把握する			
2							
3	子どもの健康と食生活の意義			成人期とは異なる小児期の栄養と食生活の特徴を学び、食育の意義について理解する			
4	(小児期における食生活の重要性 食育の意義)						
5	小児の発育・発達と栄養①			小児の身体発育や食べる機能の発達について理解し、その発達に沿った栄養状態把握の仕方を習得する			
6	(子どもの発育と栄養の関係について)						
7	小児の発育・発達と栄養②						
8	(子どもの発育と栄養の関係について 体と心の発達と栄養・食育)						
9	栄養に関する基礎知識① 栄養・栄養素			栄養・栄養素について理解する			
10							
11	栄養に関する基礎知識② 摂取基準			乳幼児の食事摂取基準を習得する			
12							
13	栄養に関する基礎知識③ 食事の構成と食育			食事構成に関する基礎知識を学び、日常生活における食育の方向性を探る			
14							
15	栄養に関する基礎知識④ 献立と調理			献立・調理の基本を学び、『食事摂取基準』・『食生活指針』を用いた献立作成能力を養う			
16							
17	調理実習事前指導			環境整備・衛生管理について学ぶ			
18							
19							
20							

21	調理実習①(施設実習に向けて)	施設実習に向けて、家庭や児童福祉施設における調理の基礎的な技術を習得する
22		
23	調理実習のまとめ	調理実習を振り返り課題解決する
24		
25	乳児の食生活①(乳児の食機能の発達と成長)	乳児の食機能の発達と成長について理解する
26		
27	乳児の食生活②(乳汁栄養)	乳汁栄養、離乳の意義と乳児期の栄養・食育について理解する ※保育所における食育に関する指針 ※保育所における食事の提供ガイドライン
28		
29	乳児の食生活③(離乳の意義と乳児期の栄養・食育)	
30	まとめ・期末試験対策	

授業科目名	子どもの食と栄養		担当者	和泉安希子							
			実務経験								
教科書	『子どもの食生活第6版』 ななみ書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法				
		2									
		時間数	こども科	2	通年 後期	必修	演習				
60											
授業概要	子どもの発育、心身の健康と食との関連を理解する。食生活を栄養摂取のみならず健康な生活の基本と位置づけたうえで、保護者への支援を射程に入れた食育の意義、目的、内容を理解する。また、アレルギー等特別な配慮を要する子の食と栄養を理解する。										
学習到達目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を学ぶとともに、子どもの発育や発達 が乳幼児期からの食生活といかに密接な関連があるかを理解する。・食育の基本を理解するとともに、食育を とりまく様々な環境についても知り、子どもの成長と食育のかかわりを学ぶ。・保育士として子どもの身体状況 や栄養状態に応じた食生活の支援ができるよう、食生活・栄養の課題を明確にし、実際の生活に展開できる力 を身につける。										
評価方法	受講態度、課題や提出物、期末試験等の総合評価										
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など							
31	調理実習事前指導(環境整備)			環境整備・衛生について学ぶ 献立作成・調理の基本を理解する 様々な生活場面での食事と栄養について理解を深める							
32											
33	食事摂取基準と献立作成・調理の基本										
34	家庭や児童福祉施設における食事と栄養										
35	調理実習①(離乳食 家庭における食事と栄養)			『離乳食』・『幼児食』の調理を通じて、それぞれの調理技術を学ぶ 離乳期・幼児期の食事の与え方等、この時期の食生活について理解を深める 家庭や児童福祉施設における献立作成・調理における注意点を把握する							
36											
37											
38											
39	調理実習②(幼児食 食生活指導)										
40											
41											
42											
43	幼児期の食生活①(食機能の発達と成長)			幼児期の食機能の発達と成長、この時期の食育の意義を学び、課題と問題点を把握する ※保育所における食育に関する指針 ※保育所における食事の提供ガイドライン							
44											
45	幼児期の食生活②(栄養・食育)										
46											
47	学童期・思春期の食生活①(心身の特徴)							学童期・思春期の心身の特徴、この時期の食育の意義を学び、課題と問題点を把握する			
48											
49	学童期・思春期の食生活②(食育の意義)										
50											

51	学童期・思春期の食生活③(学校給食と食育・栄養教育)	学校給食の意義を理解する
52		
53	生涯発達と食生活(発育・発達の概念)	ライフサイクルと食生活について理解を深める
54		
55	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① (疾病及び体調不良の子どもへの対応)	特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、 様々なデータも踏まえ理解を深める その上で楽しく・おいしく食事できるための環境づくりについて考える ※保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
56		
57	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②(食物アレルギーのある子どもへの対応)	
58	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③(障がいを持つ小児の食生活)	
59	保育所・幼稚園等での食育の実践	家庭・児童福祉施設における食育の進め方について理解を深める
60	総まとめ	

授業科目名	保育の計画と評価		担当者	工藤愛美			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新基本保育シリーズ 教育・保育カリキュラム論』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	必修	講義
30							
授業概要	発達をふまえた保育の課程を構成する、全体的な計画・長期短期の指導計画の役割と関係について理解する。保育の内容の充実と質の向上のためにこれらの計画を作成し、保育を記録省察していく計画実践評価の循環過程について学ぶ。						
学習到達目標	1. 保育所保育指針を理解した上で具体的な指導計画の作成ができる 2. 保育所における保育の評価とは何かを理解する						
評価方法	出席状況及び授業態度、提出課題、期末試験の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	保育における計画の意義			保育の計画の必要性和評価の目的、意義を学ぶ。			
2							
3	日本におけるカリキュラムの基礎理論			保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷について知り、カリキュラムの歴史について学ぶ。			
4							
5	子ども理解に基づく保育の循環			保育カリキュラムの必要性を知り、子どもの理解に基づくPDCAサイクルの循環、保育の質の向上について考える。			
6							
7	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷			保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要について、社会的背景をふまえながら理解を深める。			
8							
9	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法			幼稚園における教育課程編成の基本と編成の手順について知る。			
10							
11	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法			保育所・認定こども園における全体的な計画の基本と編成の手順について知る。			
12							
13	幼稚園の指導計画の作成			幼稚園における指導計画の作成の仕方を学び、作成上の留意事項について理解する。			
14							
15	保育所・認定こども園の指導計画の作成			保育所・認定こども園における指導計画の作成の仕方を学び、作成上の留意事項について理解する。			
16							
17	保育の評価と改善			保育の評価の側面と重要なポイントについて学ぶ。また、自己評価とは何かを知り、保育の質について考える。			
18							
19	指導計画の書き方			長期の指導計画と短期の指導計画について学び、指導計画の必要性について理解する。			
20							
21	0歳児の指導計画						

22	〇歳児の指導計画	
23	1歳以上3歳未満児の指導計画	各年齢の発達過程を捉えた指導計画について理解を深め、子どもの変化に応じた柔軟な保育の展開と子どもの実態に即した保育内容の見直しについて学ぶ。
24		
25	3歳児・4歳児の指導計画	
26		
27	5歳児の指導計画	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録の概要を知る。
28		
29	小学校との接続	幼児期の教育と小学校教育の特性について理解し、円滑な接続に向けた取り組みについて考える。
30		

授業科目名	保育内容健康		担当者	小田幹雄			
			実務経験				
教科書	「演習 保育内容 健康 大人から子どもへつなぐ健康の視点」萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	乳幼児期における健康の意義、領域「健康」のねらいと内容等、運動に関連した心身の発達について理解する。また、健康・安全に対する配慮・指導・援助についての内容や方法を学び、子どもの健康にかかわる保育者としての基本的態度を身につける。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成、健康課題や運動発達を説明できる。 ・安全な生活や怪我、病気の予防について説明できる。 ・身体を動かす楽しさに気づく。 						
評価方法	1.実践活動と課題提出による総合評価。2.出欠席時数、遅刻については、合格、不合格を決定するファクターとため、特に注意する。3.受講態度も判定内容に加味する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	ガイダンス		授業の概要について理解する。				
2	領域「健康」の考え方		各要領、指針における領域「健康」の目的と目標を理解する。				
3	領域「健康」のねらいと内容		領域「健康」のねらいと内容について理解する。				
4							
5	健康の定義と乳幼児期の健康の意義		健康の定義を理解し、乳幼児期の健康の意義について考える。				
6							
7	乳幼児期の体の発達		乳幼児期の身体的発達について学ぶ。				
8							
9	基本的生活習慣の形成とその意義		規則正しい生活習慣を身につけることが健康にどう寄与するか理解する。				
10							
11	子どもと運動		子どもにとって運動はどのような意義があるのか理解する。				
12							
13	安全教育・健康管理の理解		生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うことや、子どもが自らの体や健康に関心を持ち、心身の機能を高めていく必要性について学ぶ。				
14							
15	子どもとコーディネーション能力①		コーディネーション能力とはどのような能力を指すのか理解する。				
16							
17	子どもとコーディネーション能力②		コーディネーショントレーニングの体験をする。				
18							
19	幼児期の健康と運動あそび(ネイチャーゲーム①)		ネイチャゲームを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。				
20							

21	幼児期の健康と運動あそび(ネイチャーゲーム②)	ネイチャゲームを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
22		
23	大型遊具を使った遊び(パラバルーン①)	資料映像を鑑賞し、実践しながら特徴と使用方法を学ぶ。
24		
25	大型遊具を使った遊び(パラバルーン②)	パラバルーンを用いての表現を創作する。
26		
27		
28		
29	大型遊具を使った遊び(パラバルーン④)	パラバルーンを用いての表現を発表する。
30		

授業科目名	保育内容環境		担当者	小松千晶				
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある				
教科書	「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域環境」萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法	
		1						
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習	
30								
授業概要	5領域と領域「環境」、領域「環境」のねらいと内容、指導上の留意点。領域環境に係る幼児の発達や学びの過程の理解。保育実践の原則をふまえた具体的な保育の構想、教材や情報機器の効果的な活用。作成した指導案に基づく模擬保育と振り返り。小学校教育の接続。							
学習到達目標	領域「環境」がわかり、領域環境に関わるねらいを達成するための幼児の発達や学びの過程をふまえた保育実践ができる。							
評価方法	受講態度や、課題解決学習、単位認定試験結果等を総合的に評価する							
時数	授業内容			到達目標・学習課題など				
1	保育環境と領域「環境」	保育環境、5領域と領域「環境」、領域「環境」のねらいと内容、内容の取り扱い。乳児から3歳以上児のねらいと、内容の具体的な中身						
2								
3								
4	小学校教育の接続	幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の中身の接続、環境問題、幼児のできるSDGsの活動						
5								
6	領域「環境」環境のねらいと内容に関わる乳児の発達	まわりの事物、自然事象への興味関心、生命観、命の大切さ、文化、伝統への親しみ、思考力、数量・図形への関心、標識や文字への関心、情報や施設などへの興味・関心						
7								
8	領域「環境」に関わる保育の指導計画	領域「環境」のねらいを達成する保育実践の4原則						
9	指導計画・指導案(日案)の作成	指導計画の種類、「環境」に関わる狙いを設定し、その狙いを含めた指導案(日案)を作成する。					指導のねらいを捉え、見通しをもった計画を立てることができるようになる。	
10								
11	模擬保育と評価改善	模擬保育の実践と振り返り						
12								
13	領域「環境」のねらいを達成する保育実践例	5歳児の「生き物の採集、飼育または栽培活動」						
14	授業のまとめ、領域「環境」の指導、指導ができる保育者	他実践例、科学遊び、伝統や文化、地域の施設見学他						
15	子どもと環境のまとめ	領域「環境」と保育環境の違いを知る。3つのねらいと内容						
16	現代の保育の課題と領域「環境」	子供の育つ環境としての現代社会、新しい時代の教育の課題						
17								
18	幼児期の思考力の芽生え	関わる、出会う、気づく、発見する、考える、思考する。協同的に遊べるようになる。						
19								
20	動植物に関する環境指導のあり方と実践							
21	・生活や遊びに取り入れる際の事前準備と配慮事項							

22	・自然事象に関する環境指導のあり方と実践	動植物や天気、石・砂・土・光・音などの自然事象、遊具や用具、紙やプラスチック製品などの人口素材、人の生活やそれにかかわる施設、設備、各種の行事や情報等を含む社会事象、数量・図形・文字等を対象とした活動を想定し、それらに関する環境指導のあり方と実践について、演習を通して理解を深める。実際に散歩に行き、自然物や自然環境に目を向け直接触れる体験活動をできるようにする。	
23			
24	「地域」に関する環境指導のあり方と実践		
25	地域の行事への参加		
26	「情報・数量・図形」「物・用具」に関する環境指導のあり方と実践		保育者は子どもの活動環境としてどのような場所や素材等を準備していく必要があるのか、また、子供がその環境に自発的・主体的に関わっていく道筋について考え、保育実践につなげていく
27	・生活や遊びへの取り入れ方とその展開		
28	・廃材を使った玩具作りと遊びの展開		
29	物や道具に関わって遊ぶ		身近な情報や出来事に興味をもつ遊びの中で情報を使う。日本の文化や異なる文化に触れる。
30			

授業科目名	保育内容表現		担当者	小松千晶			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『事例で学ぶ保育内容 領域表現』 萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	領域「表現」に関連して、生活や遊びのなかの子どもの実態を把握するため、保育内容を組み立てて実践するための知識・技術・判断力の習得を目指す。発達過程にふさわしいねらいの立て方、教材の活用、環境構成、配慮事項について、演習を通じて具体的に学ぶ。						
学習到達目標	乳幼児期における表現の発達について理解を深める 発達に応じた保育演習を通して子どもたちの表現あそびが生き生きと展開されるような実践力を習得する						
評価方法	演習・模擬保育実技テスト						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	<幼児教育の基本> ▽幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼児教育の捉え方とは ▽これからの0-2歳児保育▽幼児教育の目的と領域▽環境を通じた保育▽幼児教育の基本▽保育者の様々な役割▽幼児教育と領域表現			幼児教育における領域表現の基本的な考え方を理解し、保育所保育指針の理念について学びを深める 保育における領域の考え方について理解する			
2							
3							
4							
5	<乳幼児期の発達と表現> ▽感性と創造性を育む▽豊かな表現を支える援助や環境▽乳幼児の表現が育つ基盤			発達時期ごとの表現の特性の理解を深める 表現の発達を支える環境のあり方について学ぶ			
6							
7	<生活のなかにあるものをあじわい、感性を養う> ▽色▽形▽歌▽動き▽手触り▽ともにあじわい表現する			子どもの感性を養うことで表現の幅が広がることを学ぶ 表現の豊かさは保育者や友だちとの関わりによって深まることを知る			
8							
9	<保育者が支える表現> ▽表現を支える保育者の基本的なあり方▽豊かな表現を支える援助や環境			子どもが表現することを捉えた保育について学ぶ			
10							
11	<子どもの豊かな感性と音楽表現> ①楽器あそび演習 (リズム楽器、鉄琴、大太鼓、小太鼓等の鳴らし方を知り、グループで曲に合わせて分担奏をする) ②表現あそび演習 (年齢を考慮したリズム表現、楽器を使った表現あそびを行う)			楽器の鳴らし方を知り、グループに分かれて曲に合わせた分担奏を考えて発表する			
12							
13							
14							
15	<未満児の表現あそびについて 計画と実施> 保育の流れを考え、指導案を作成する 模擬保育の準備をする 模擬保育を行う(実技テスト) 改善点を探る			年齢に応じた表現あそびの模擬保育を行い、子どもの豊かな表現をひき出す保育のあり方について演習を通して実践力を習得する			
16							
17							
18							
19							
20							
21							

22	<p><以上児の表現あそびについて 計画と実施></p> <p>保育の流れを考え、指導案を作成する</p> <p>模擬保育の準備をする</p> <p>模擬保育を行う(実技テスト)</p> <p>改善点を探る</p>	
23		
24		
25		
26		
27	<p><これまでのまとめと考察></p>	<p>これまでの学びのまとめ</p> <p>記述問題に関する考察</p>
28		
29	<p><領域「表現」の現代的課題と新たな試み></p>	<p>「表現する意欲」を育む保育のあり方について学ぶ</p>
30		

授業科目名	音楽表現演習Ⅱ		担当者	山田瑠璃子・諏訪恵理・郷陽子			
			実務経験	民間のピアノ教室で指導者としての経験がある			
教科書	『一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現』萌文書林、『わくわく音遊びでかんたん発表会』すずき出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
		30					
授業概要	一年次の「音楽表現演習Ⅰ」を基に知識・技術の深化拡大を図ると共に、乳児における3視点と1歳以上児における5領域のなかに、学習内容を活かす方法を探りながら、保育における音楽表現を生活と遊びの豊かさという観点で捉え直すことを目標とする						
学習到達目標	音と音楽表現についての理解を深め、保育現場で実践できる力を身につける						
評価方法	①授業への取り組み ②発表の実演						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	保育で使用する子どもの歌の弾き歌い①			保育園でよく歌われる季節、行事、あいさつに関する歌を覚える			
2							
3	「表現」についての基本的な考え方			「表現」についての基本的な考え方を学ぶ			
4							
5	身体表現①(リトミック)			基礎リズムパターンを理解する			
6							
7	身体表現②(基本動作)			身体を使ったリトミックを実践する			
8							
9	音楽表現・身体表現			時代の進化に合わせた保育における振付等の指導法を実践する			
10							
11	オリジナル楽器の製作			保育で使用するオリジナル楽器を製作する			
12							
13	言語表現			保育におけるイメージと動き、言葉の結びつきを学ぶ			
14							
15	表現する力を育てるための保育者の役割と援助 絵本に音をつける①			音を付けた絵本の読み聞かせを通して保育者の役割と援助のあり方を学ぶ			
16							
17	リズム表現①			リズム楽器の演奏法を学ぶ			
18							
19	保育で使用する子どもの歌の弾き歌い②			楽譜に正確に演奏し、豊か声量、正確な音程で弾き歌いをする			

20		
21	絵本に音をつける②	絵本に合った音を探す
22		
23	リズム表現②	リズム楽器を使って合奏する
24		
25	絵本に音をつける③ (完成)	実際に音をつけて絵本の読み聞かせを実演する
26	保育で使用する子どもの歌の弾き歌い③ (完成)	子どもと歌うことを想定し、表現豊かに弾き歌いをする
27	「音楽表現演習Ⅱ」発表会に向けたリハーサル	発表会に向けて、リハーサルを行う
28		
29	「音楽表現演習Ⅱ」発表会	音楽表現Ⅱで学んだことを発表する
30		

授業科目名	児童文化演習		担当者	日野つね子			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『演習「児童文化」保育内容としての実践と展開』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	保育所保育指針や幼稚園教育要領の領域「言葉」を踏まえ、児童文化財がこどものことばの育ちにどのように役立つのかを理解する。また保育の現場で活用出来る児童文化財(ペープサート、パネルシアター、絵本、紙芝居、手遊び、おはなし等)について知識を深め、実技を通じ技術を習得する。						
学習到達目標	・児童文化財とことばの育ちについて学ぶ ・児童文化財の利用の仕方について学び、児童文化財のそれぞれを保育に生かせるような実践力を習得する						
評価方法	授業出席状況(出席率、態度、積極性)、実技試験、レポート、定期試験を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業概要説明 ・言葉の機能と言葉の発達①			言葉にはどのような機能があり、こどもの言葉はどのように発達するのかを学ぶ			
2	・言葉の機能と言葉の発達②			こどもの言葉の発達における保育者の役割を理解する			
3	・領域「言葉」のねらい及び内容			5領域の中における領域「言葉」を理解する			
4							
5	・ことばを育てる児童文化財－児童文化財とは			児童文化財とは何かどんな種類があるかを理解する			
6	・ことばを育てる児童文化財① ペープサート:特徴、作り方、演じ方、実技試験 パネルシアター:特徴、作り方、演じ方、実技試験			ペープサート、パネルシアターの特徴や絵人形の作り方演じ方の基本を理解し、実践力を習得する			
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	・ことばを育てる児童文化財②			絵本、紙芝居の特徴や読み聞かせの留意点を学び読み聞かせの実践力を習得する			
18	絵本:特徴、読み聞かせの絵本の選び方、読み聞かせ方						
19	紙芝居:特徴、読み聞かせの紙芝居の選び方、読み聞かせ方						
20							
21	・ことばを育てる児童文化財③ おはなし			おはなしとは何か、その必要性や語り方を学ぶ			

22		
23		
24	・ことばを育てる児童文化財④ わらべうた、あそびうた(手遊び)	わらべうた、あそびうたの特徴、重要性、実践のあり方を学ぶ
25		
26		
27	・ことばを育てる児童文化財⑤ おもちゃ	おもちゃの意義や年齢に応じたおもちゃの種類と選び方について学ぶ
28		
29	ことばを育む教材について	ことばを育む教材の制作の方法を学ぶ
30	保幼小連携について	保幼小の連携の重要性と「言葉」「言語表現」における連携の実際について学ぶ

授業科目名	乳児保育Ⅱ		担当者	小松千晶			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『改訂 乳児保育の基本』 萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	3歳未満児の発育と発達、養護と教育の一体性への理解を基にして、生活・遊び・環境の望ましいあり方、配慮・援助・関わりの実際について具体的に学ぶ。さらに、子どもの実態に即した個別的な指導計画と集団の指導計画の作成、長期短期の指導計画作成について具体的に学ぶ。						
学習到達目標	1. 3歳未満児に応じた援助や関わりの方針について理解する 2. 3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に学ぶ 3. 乳児保育における配慮の実際について理解する 4. 乳児保育における計画の実際について理解する						
評価方法	授業出席態度、授業内課題への取り組み、期末試験を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	○ 乳児保育の基本 ・乳児の主体性を尊重した生活			“なぜ主体性を大切にするのか”“主体性を尊重する保育とは”を理解する 環境の重要性を理解する 乳児期の発達過程の全体像をとらえる			
2	○ 乳児保育の基本 ・乳児の主体性を尊重した遊びの展開						
3	○ 乳児保育の基本 ・一人ひとりの子どもの発達過程に沿った対応の基本、家庭との連絡						
4	○ 乳児保育の基本 ・乳児の主体性を尊重した生活 ・一人ひとりの子どもを理解した援助、受容的、応答的な関わり						
5	○DVD視聴「赤ちゃん-運動発達の神秘-」 ・視聴			乳児の運動能力の発達を理解する			
6	○DVD視聴「赤ちゃん-運動発達の神秘-」 ・考察とまとめ						
7	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・生活を通して行う保育			乳児の日課を理解し、生活や遊びにおける保育者による援助や関わりを学ぶ。(調乳の仕方の実践、ミルクの飲ませかた、おむつ替えの実践、乳児の沐浴の仕方の実践、衣服の着脱の実践、おんぶの仕方の実践)			
8	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・遊びを通して行う保育						
9	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・生活環境						
10	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・遊びの環境						
11	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・子どもの健康支援						
12	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・日常の保育のなかでの健康の管理						
13	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・発育・発達状態の把握、感染症予防						
14	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・アレルギー疾患への対応 ・子どもの発達と事故						
15	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・事故の予防と安全の対応						
16	○ 生活や遊びを通しての保育とその環境 ・食育の推進						
17	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (0歳児) ・一日の流れと保育環境			子どもの発達を尊重した環境、環境構成、援助のあり			
18	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (0歳児) ・子どもの遊びや生活を支える環境構成						
19	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (0歳児) ・保育環境の実際						
20	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (0歳児) ・生活と援助及び遊びの援助の実際						

21	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (1・2歳児) ・一日の流れと保育環境	方を学ぶ
22	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (1・2歳児) ・子どもの遊びや生活を支える環境構成	
23	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (1・2歳児) ・生活と援助の実際	
24	○ 乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 (1・2歳児) ・遊びの援助と実際	
25	○ 保育の全体的な計画と指導計画の実際 ・保育の全体的な計画の構造	3歳未満児の保育の計画の構造を理解し、指導計画 の手順を学ぶ
26	○ 保育の全体的な計画と指導計画の実際 ・3歳未満児の指導計画の作成の手順	
27	○ 保育の全体的な計画と指導計画の実際 ・1歳児クラスの指導計画	
28	○ 保育の全体的な計画と指導計画の実際 ・指導計画作成の実際(1歳児)	
29	○ 保育の全体的な計画と指導計画の実際 ・月案の作成について	
30	まとめ 「乳児保育Ⅱ」を学んで	振り返りをする

授業科目名	社会的養護Ⅱ		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『新 基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	必修	演習
30							
授業概要	科目「社会的養護Ⅰ」で学んだことをふまえ、施設・家庭養護における日常生活支援、治療的支援、自立支援の内容、計画作りと評価の方法を学ぶ。現状の課題から特に児童と保護者に対する包括的な支援と援助技術的側面の向上について学ぶ。						
学習到達目標	社会的養護における子どもの権利擁護とは何か、社会的養護において大切なことは何かを理解する。						
評価方法	出席状況及び授業態度、提出課題、期末試験の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	社会的養護における子どもの理解			演習を通して、子どもの権利擁護と規則の関係について考える			
2							
3				社会的養護を必要とする子どもの背景と実態について考える			
4							
5	日常生活支援について			日常生活支援の在り方と大切さを理解する			
6							
7	治療的支援について			心理的支援の特徴と考え方について理解する			
8							
9	自立支援について			自立支援とは何か、その視点と方法を知る			
10							
11	施設養護の生活特性及び実際			種々の施設の特性と支援の実際を理解する			
12							
13				種々の施設の特性と支援の実際を理解する			
14							
15	家庭養護の生活特性と及び実際			家庭養護の生活特性と実際について理解する			
16							
17	アセスメントと個別支援計画の作成			アセスメントとは何かを理解し、個別支援計画を作成できるようになる			
18							
19	記録及び自己評価			記録の意義と自己評価の必要性を知る			
20							
21	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践			社会的養護における保育士の意味と役割を理解する			

22	児童福祉司としての関与に関する知識・技術としての実践	社会的養護における児童福祉司の役割と任務
23	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	ソーシャルワークについて理解し、基本的な知識と技術を学ぶ
24		
25		
26		
27	社会的養護における家庭支援	家庭を支援するとはどういうことか考え、その方法を理解する
28		
29	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と解決に向けた取り組みの実際を知る
30		

授業科目名	子育て支援		担当者	阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	後期	必修	演習
30							
授業概要	子ども子育て支援新制度の理解を前提とし、入所児の保護者のみならず地域の全ての子育て家庭に対して、個別の事情を捉えつつニーズを把握し支援するための関係形成、支援の展開方法と評価、他の職員と専門機関や自治体との協働について学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の意義と価値について理解を深める ・子育て支援の実践における専門的技術を習得する ・子育て支援(保育相談)の演習を通して保護者との信頼関係に基づいた実践力を習得する 						
評価方法	課題・演習(作文・グループディスカッション・報告書・ロールプレイ)ワークシート・期末筆記テスト						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	レッスン1 子育て支援とは			子育て支援の制度的基盤について理解する			
2	レッスン2 子育て支援の意義(貧困と虐待の現状と課題)			子育て支援が求められる社会的背景について把握する			
3	レッスン2 子育て支援の意義(保育所等が果たす役割、独自性)			子育て支援における保育所等の役割を知るとともに、専門性について理解する。			
4	ワークシート1, 2 レッスン3 子育て支援の基本的価値			レッスン1,2,3の学びの確認と、保護者との共通認識についてストーリーを読み解く			
5	レッスン3 子育て支援の倫理 作文課題「自分が受けた子育てについて」			保育所保育指針や全国保育士会倫理綱領より、保護者との信頼構築の心構えと態度を学ぶ			
6	レッスン4 子育て支援の基本的姿勢			子育て支援を行うための基本的姿勢を習得する			
7	レッスン5 子育て支援の技術			子育て支援のプロセスと必要なコミュニケーション技法を学ぶ			
8	ワークシート4,5			レッスン4,5の学びを確認し、まとめる			
9	レッスン6 園内・園外との連携と社会資源			身近な地域で子育て支援で活用できる社会資源を把握する			
10	ワークシート6 グループディスカッション「実習園での連携」			実習先での子育て支援の連携の仕方について振り返る			
11	レッスン7 記録・評価・研修			記録の書き方や報告書の作成について理解する			
12	模擬研修・報告書の作成			模擬研修後、報告書の作成を行う			
13	レッスン8 日常会話を活用した子育て支援			保育場面に応じた保護者とのコミュニケーションについて学ぶ			
14	ワークシート7 レッスン8 ロールプレイ(保護者対応)			レッスン7の学びの確認と、事例を元に保護者対応についてロールプレイを通して学ぶ			
15	ワークシート8 作文課題「望ましい人間像について」			子育て支援を行う望ましい人間像について考える			
16	レッスン9 文書を活用した子育て支援(文書の種類、書き方)			様々な種類の文書があることを知り、書き方の基本を習得する			
17	レッスン9 文書を活用した子育て支援(演習課題)			演習を通して文書の作成について理解を深める			
18	ワークシート9 レッスン10 行事などを活用した子育て支援			保護者が参加する行事の意義について理解する			
19	ワークシート10 アイスブレイキングについて			レッスン10の学びの確認と、保護者の緊張をほぐすための手法について学ぶ			
20	レッスン11 環境を活用した子育て支援			子育て支援における環境の意義と特性を理解する			
21	レッスン12 地域子育て支援拠点における支援			地域子育て支援拠点での保護者との関わりを学ぶ			

22	ワークシート11,12	レッスン11,12の学びを確認し、まとめる
23	児童相談所について	児童相談所の役割、相談の種類、職員構成について調べ、まとめる
24	レッスン13 入所施設における子育て支援	入所施設を利用する保護者との関わり方を学ぶ
25	レッスン14 通所施設における子育て支援	通所施設における子育て支援の基本について学ぶ
26	ワークシート13,14 子育て相談、苦情解決について	レッスン13,14の学びの確認と、子どもに関する相談、苦情解決について園としての対応を学ぶ
27	保育相談実技(事例検討)…発達が遅れ	事例をもとに保育相談の事例検討を行う
28	保育相談実技(保護者対応)	事例を元に保育相談の保護者対応(ロールプレイ)を行う
29	レッスン15 今後の課題	子育て支援における自分の課題を探る
30	ワークシート15 まとめ	レッスン15の学びの確認と、授業のまとめを行う

授業科目名	保育実習Ⅰ(保育所)		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 保育所実習』北大路書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	必修	実習
90							
授業概要	保育所の役割と機能、保育士の倫理と職務内容、保育実践における観察、記録、援助の内容と方法について、保育現場での観察、参加、保育実践を通して学習し保育実践力の基礎を学ぶ。また、園全体の保育計画を基にした週や日の指導計画案の作成を通して、実践と計画の関係を学ぶ。						
学習到達目標	①保育所等の役割や機能を具体的に理解する。②観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。⑤保育士等の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。						
評価方法	評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1～3	<p><観察・参加実習></p> <p>①保育所等での乳幼児の姿を観察する。</p> <p>②保育士等の援助行動について観察し、保育に参加する。</p> <p>③環境構成について観察する。</p> <p><参加・部分実習></p> <p>①保育の環境を整備する。</p> <p>②自由遊び場面では、子どもと一緒に遊ぶことを通して子どもを理解するための手がかりを得る。</p> <p>③クラス保育の場面では、担当保育士等の要請に従い、保育士等の補助をしながら、クラス活動の流れを理解する。また、担当保育士等の指示に従い、保育の一部分の実践を担当する。</p> <p>④生活援助全般について年齢別に体験する。</p> <p><指導実習(部分実習)></p> <p>担当する時間の指導案を担当保育士等の指導のもとに作成し、保育を実践する。</p> <p>①日常繰り返す活動の実習</p> <p>②時間的に連続した2, 3の活動の実習</p> <p>③ある程度まとまった時間の活動の実習</p>			<p>保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領に照らしながら、保育所における保育について理解を深める。</p> <p>保育の実際に接し、また子どもとのかかわりを通して、乳幼児の発達と保育所保育の意義について理解する。</p> <p>健康安全への配慮、子育て支援等の実際について学ぶ。</p>			
4～6							
7～9							
10～12							
13～15							
16～18							
19～21							
22～24							
25～27							
28～30							
31～33							
34～36							
37～39							
40～42							
43～45							
46～48							
49～51							
52～54							
55～57							
58～60							

61～63	
64～66	
67～69	
70～72	
73～75	
76～78	
79～81	
82～84	
85～87	
88～90	

授業科目名	保育実習 I (施設)		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 施設実習』北大路書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	必修	実習
90							
授業概要	保育所以外の児童福祉施設・障害者施設の役割と機能、保育士の倫理と職務内容、生活支援・就労支援における観察、記録、援助の内容と方法について、観察、参加を通して学習し実践力の基礎を学ぶ。また、施設全体の計画と個別指導計画の関係について学ぶ。						
学習到達目標	①実習施設の概要と機能及び役割を、体験を通して理解する。②多様で広範な職員の職務内容や役割、職業倫理を理解する。また、施設で働く上で、チームアプローチが基本であり、職員間の協力と連携が必要不可欠であることも理解する。③子ども・利用者とその支援(養護)について理解する。また、子ども・利用者の特性を理解し、一人一人に応じた支援(養護)の大切さを学ぶ。④施設における計画や記録、評価の方法について学び、自らの実習に関しての記録に基づく振り返りや自己評価の必要性について理解する。						
評価方法	評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1～3	【養護系の施設】 <観察実習> ・施設の実態を、客観的に把握することをねらいとし、生活の流れを理解するとともに、子どもと一緒に過ごすことにより、保育士や他職種の援助内容を理解する。			実習施設における職員の業務を体験することにより、実習施設の機能や役割等を理解する。			
4～6							
7～9							
10～12							
13～15							
16～18							
19～21							
22～24							
25～27							
28～30							
31～33							
34～36							
37～39							
40～42							
43～45							
46～48							
49～51							
52～54							
55～57							
58～60	<指導実習(部分実習)> ・保育士、支援職員の職務の一部を担当することにより、支援の実際を体験する。						

61～63	
64～66	
67～69	
70～72	
73～75	
76～78	
79～81	
82～84	
85～87	
88～90	

授業科目名	保育実習指導 I -B		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 保育所実習』北大路書房、 『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 施設実習』北大路書房、 『DVD+CD たのしい手あそびうた (ナツメ幼稚園・保育園BOOKS)』ナツメ社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
	時間数	こども科	2	前期	必修	演習	
							30
授業概要	保育実習 I -Aでの学びを踏まえ、実習事前指導で身につけた知識や技術を再確認し、実習の目標を明確にする。実習計画・観察・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習事後指導を通して実習の反省と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習事前指導を通して、身につけた知識や技術を再確認し、実習の目標を明確にする。 ・実習計画、観察、実践、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習事後指導を通して実習の反省と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 						
評価方法	保育実習(施設)の事前指導・事後指導に関する提出物や取り組み状況、課題等による総合評価。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーションでのチェックポイント			<ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的や意義、各施設種別の概要などを再確認し、学ぶべき課題を明確にしたうえで、自身の目標を立て実習事前準備等を行う。 			
2	・オリエンテーションの依頼から参加の心構えとポイントまでを再確認する。 ・オリエンテーションでの確認事項について						
3	実習の段階とそれぞれの流れ						
4	・観察実習、参加実習、部分実習、全日実習の実習内容について理解する。						
5	実習の手順と内容(実習前→実習中→実習後)						
6							
7	実習前の再学習と準備						
8	・自分の目標にあわせた事前学習や事前準備の必要性について学ぶ。						
9	施設実習について(養護系の施設と障害系の施設)						
10	・児童対象の施設と障害児(者)のいる施設での実習目的や留意事項を理解する。						
11	特別の配慮を要する子どもについて						
12	・統合保育と障がいを再確認する。 ・被虐待児の問題点について考える。						
13	実習日誌について						
14							
15							
16							
17	各施設のデイリープログラムと指導計画について			<ul style="list-style-type: none"> ・各施設のデイリープログラムと指導計画について再確認する。 ・指導案(日案)の書き方を習得する。 			
18							
19							

20		
21		
22	<p><実習事前準備> ・種別や実習施設、個人の課題に合わせた個別指導を行う。</p>	<p>・個別指導のもと、実習までに必要な事前準備を行う。</p>
23		
24		
25		
26	<p>実習事後指導・実習報告会 ・実習お礼状の作成と振り返り ・実習で行った内容・反省事項・学んだことなどをまとめ各自発表をする。</p>	<p>・現場での実体験から、保育士を目指すうえで必要となる自己の課題を明確にし、克服できるようにする。</p>
27		
28		
29		
30		

授業科目名	保育実践演習		担当者	工藤愛美			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『保育・教職実践演習 学びの軌跡の集大成を目指して』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	通年前期	必修	演習
60							
授業概要	保育者に必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観が習得形成されたかを振り返る。また、自他の実習体験やその他保育に関する情報を基に、保育現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンスおよび保育実技を通して実践的指導力を身につける。さらにその中で自己の課題を把握し、向上のための手段と方法を明確化する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びの復習をしながら、「保育・社会的養護・保育者」についての考察と認識を深める 自分自身の課題を把握し、向上のための手段と方法を探る 						
評価方法	出席状況、提出課題、授業内演習での取り組み、レポート、期末試験の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション・保育実践演習で学ぶこと			授業概要を理解し、履修カルテを活用しながら自己評価の設定を行う。			
2							
3	<保育者の職務内容を知る> 【1】 保育者に求められる資質能力を知る			保育者という職業、保育者に求められる資質と能力について知る。また、就学前教育・保育施設の保育者に期待されることについて学ぶ。			
4							
5	【2】 職場を知る			幼稚園、認定こども園、保育所の1日とそれぞれの施設が担うことについて再確認する。			
6							
7	【3】 クラス担任の仕事を知る			クラス担任の職務内容と役割について理解し、自らが大切にしたいこと、重視したいことを整理する。			
8							
9							
10	<保育者としての実践力を磨く> 【4】 人間関係の育ちとクラス運営			一人ひとりの良さを活かすクラス作りと様々なクラス編成について理解を深める。			
11							
12	【5】 特別な支援の必要な子どもとその対応			保育における集団の編成、異年齢保育と統合保育について学ぶ。また、障がいのある子どもや外国籍の子どもなどの受け入れのポイントについて考える。			
13							
14							
15	【6】 保護者との関係構築・地域の子育て支援			事例やグループワークを通して、問題を抱えた全ての保護者を念頭に、対応で大切にしたいことについて考える。			
16							
17	【7】 幼保小連携			幼稚園、認定こども園、保育所から小学校へのなめらかな接続について具体的に学ぶ。			
18							
19	【8】 健康な園生活をつくる			乳幼児期の健康と関連の深い「アレルギー」「食育」「睡眠」「感染症」等について取り上げ、保育者が特に注意しておくことを整理する。			
20							

21	【9】 安全な園生活をつくる	園における安全に関する教育の内容を整理して確認するとともに、保育を展開するうえで危険を想定して対応していくことについて学ぶ。
22		
23	< 保育者の専門性を向上させる > 【10】教材研究する力をつける	実習の経験等を通して、子どもの姿から教材研究を振り返り、改善していく方策について考える。
24		
25	【11】 保育記録を書く力をつける	保育記録の意義や活かし方、さまざまな記録方法について再確認するとともに、自身の保育を省察し、計画に活かせる実践力を身につける。
26		
27	【12】 研修を通して学ぶ	質の高い教育・保育を行うために必要な保育者の専門性を身につけ、保ち続けるために重要となる研修について考える。
28		
29	【13】 現代的教育課題への対応	多様化する社会で幼児教育・保育が抱えている課題について見つめなおし、幼児教育の将来的展望について考える。
30		

授業科目名	保育実践演習		担当者	工藤愛美						
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある						
教科書	『保育・教職実践演習 学びの軌跡の集大成を目指して』中央法規出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法			
		2								
		時間数	こども科	2	通年後期	必修	演習			
60										
授業概要	保育者に必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観が習得形成されたかを振り返る。また、自他の実習体験やその他保育に関する情報を基に、保育現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンスおよび保育実技を通して実践的指導力を身につける。さらにその中で自己の課題を把握し、向上のための手段と方法を明確化する。									
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びの復習をしながら、「保育・社会的養護・保育者」についての考察と認識を深める 自分自身の課題を把握し、向上のための手段と方法を探る 									
評価方法	出席状況、提出課題、授業内演習での取り組み、レポート、期末試験の総合評価									
時数	授業内容			到達目標・学習課題など						
31	オリエンテーション			これまでの現場実習を振り返り、履修カルテを活用しながらその成果と課題をまとめる。						
32	学級経営における保育現場での保育者の対応			保育場面での事例研究をもとに、ロールプレイング、討議、討論などを通して、子どもについて多面的な理解を深める。また、互いの見方や考え方を交流させていくことで、他の保育者と協働して問題を解決する力を身につける。						
33								①クラス作りとクラス担任の役割について		
34										
35	②日常的に発生するクラス内での問題について									
36										
37	③保育場面における課題のある子どもに対する対応について (保護者と連携した対応)									
38										
39	④教育課題の解決に向けた保育者としてのアプローチについて									
40										
41	⑤信頼される保育者となるためのリスクマネジメントについて									
42										
43	自己の振り返り・今後に向けての課題			成長し続ける保育者となるために、これまでの演習を振り返り、今後へ向けての課題を明確化する。						
44										
45										
46	現代の保育で求められる課題と展望			<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画・支援計画について理解する。また、統合保育の課題と展望について考える。 						
47								①統合保育・異年齢保育について		
48										
49	②「幼保小連携」への対応と連携について			学びの連続性と子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方について具体的に考える。						
50										
51										

52	保育計画と模擬保育 ①ある場面の指導計画を作成する。	これまでの学びを整理し、実践に移す準備・計画をする。
53		
54		
55		
56	②模擬保育を行う。	指導計画に基づき、模擬保育を行う。
57		
58		
59	③保育の振り返りを行う。	実践的指導力の習得を目指し、保育職への意欲を醸成する。
60		

授業科目名	保育制度		担当者	町田洋介			
			実務経験				
教科書	資料を配付する	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	講義
30							
授業概要	これまでの幼児教育・保育制度とその背景思想の歴史を概観し、現在の子ども・子育て支援制度とそれを取り巻く社会情勢について学ぶことで、幼児教育・保育の現状と課題を明らかにする。また、最新の政策動向や諸外国の幼児教育・保育、子育て支援の政策について取り上げ、検討する。						
学習到達目標	1.社会の要請と保育制度の歴史的変遷を捉えたうえで、現在の保育法令・保育行政について理解する 2.最新の政策動向や諸外国の保育政策について理解する						
評価方法	課題の提出、期末試験による						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	日本の保育制度の歴史的変遷① 戦前の幼児教育 保育所の創設			戦前戦後の社会情勢と保育思想について理解する 社会的要請と保育・幼児教育行政の関係を知る			
2							
3	日本の保育制度の歴史的変遷② 児童福祉の法制化						
4							
5	日本の保育制度の歴史的変遷③ 待機児童問題と保育施設の多様化						
6							
7	日本の保育制度の歴史的変遷④ こども家庭庁の創設						
8							
9	子ども・子育て支援制度① 制度下のさまざまな施設			現在の子ども家庭支援制度の内容について理解する			
10							
11	子ども・子育て支援制度② 地域におけるさまざまな支援事業						
12							
13	子ども・子育て支援制度③ 国の仕事・子育て両立支援事業						
14							
15	子ども・子育て支援制度④ 給付金制度						
16							
17	子ども・子育て支援制度⑤ 幼児教育・保育の無償化						
18							
19	諸外国の保育動向① 日本の保育制度と諸外国の保育制度の比較			諸外国の乳幼児期の教育について知る			
20							
21	諸外国の保育動向② 直近のOECD 幼児教育・保育白書(1)						

22		
23	諸外国の保育動向② 直近のOECD 幼児教育・保育白書(2)	
24		
25	最新の保育政策動向① 保育・幼児教育の現状と課題	現在の保育・幼児教育における課題とそれに対する 制度の整備状況について知る
26		
27	最新の保育政策動向② 近年制定・改正された法令	
28		
29	まとめ	
30		

授業科目名	特別支援教育		担当者	阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『実践に生かす障害児保育』 萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	講義
15							
授業概要	特別な教育的ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。						
学習到達目標	特別な教育的ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育園の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。						
評価方法	レポート、学期末試験、授業態度						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程 ①特別な教育的ニーズとは何か			特別支援教育への転換による教育支援システムを理解し、特別な教育的ニーズとは何かを把握する。			
2	特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程 ②特別支援教育課程と学びの場			子どもたちの理解と教育的ニーズに応じた支援を考える。			
3	発達障害や軽度知的障害を持つ子どもの特性 ①発達障害や軽度知的障害の心と身体の育ち			発達障害や軽度知的障害とは何かを知り、それぞれの特徴や心と身体の育ちを理解する。			
4	発達障害や軽度知的障害を持つ子どもの特性 ②子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び			一人ひとりのニーズをどのように捉えればよいかを学び、支援に必要な視点を考える。			
5	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性 ①多様な子どものニーズの理解			各障がいの特徴とニーズを理解する。			
6	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性 ②多様な子どもの学びと生活			各障がいに対する関わり方や支援方法を理解する。			
7	子どものニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援			学習指導要領のねらいとポイントを押さえる。			
8	子どものニーズに合わせた支援 ②通常の学級における担任による支援			事例をもとに、通常の学級における担任の支援方法について考える。			
9	教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画			個別の教育支援計画のねらいや作成について知り、指導方法や指導体制の工夫について理解を深める。			
10	教育チームによる組織的支援 ②アセスメントに基づく計画と評価			教育アセスメントとは何かを知り、アセスメントに基づく計画と評価の流れを理解する。			
11	特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割			特別支援教育コーディネーターの役割を知る。			
12	特別支援教育コーディネーター ②外部教育資源との連携と協働			特別支援教育コーディネーターによる、外部教育資源との連携・協働について理解を深める。			
13	保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭をとりまく問題			保護者や家庭が受けるストレスや障害の需要への道筋を把握する。			
14	保護者・家庭支援と連携 ②保護者・家庭とのつながりの重要性			信頼関係を基本とした、保護者や家庭との繋がり的重要性とその実際について事例から考える。			
15	特別な教育的ニーズを考える ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援			現代的な視点から、外国語を母語とする家庭や貧困問題を抱える家庭に対する理解及び支援を考える。			

授業科目名	メンタルヘルス		担当者	石神美環子			
			実務経験	宮城県子ども教育相談の電話相談員として勤務経験がある			
教科書	『メンタルヘルス不調のある親への育児支援』明石書房	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	科目「子ども家庭支援の心理学」で扱う、子・親・家族の精神保健の概要をふまえ、日常生活で生じうる心理的危機、その病変と対処治療法の実際について、精神医学、作業療法学の観点から学び、保育者としての分限を守りつつ子・親・家族を支援することに役立てる。						
学習到達目標	学生の身近な日常生活を通して精神的健康について考え、メンタルヘルスに不調のある親やこどもの理解とその具体的な支援の在り方について学ぶ。						
評価方法	出席、授業参加態度、課題等提出物、期末試験成績などから総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	メンタルヘルスとは何か			精神的健康の様々な定義と、心の健康を定義することの難しさについて考える。 また、行動の背景にある感情、感情の結果としての行動について柔軟に理解できるようにする。			
2	心の健康を考えることの難しさ						
3	【演習】感情と行動のブレインストーミング						
4	メンタルヘルスの歴史①			精神障害者への差別・偏見・迫害の歴史とその解決のための社会的取り組みについて学び、今日のメンタルヘルスをめぐる状況について考える。			
5	メンタルヘルスの歴史②						
6	メンタルヘルスの歴史③						
7	ストレスと葛藤①			ストレスを感じる仕組み、からだとの相互作用、自律神経の働き、ストレスによる心身症状などについて理解する。			
8	ストレスと葛藤②						
9	ストレスと葛藤③						
10	ライフサイクルとメンタルヘルス①			乳幼児期から老年期それぞれの段階で考えられる危機、ライフイベントとメンタルヘルスについて理解する。また、カウンセリングにおいてクライアントの話を聞き、正確に理解することについて演習を通して理解する。			
11	ライフサイクルとメンタルヘルス②						
12	【演習】クライアントの問題の理解						
13	代表的な精神障害の理解①			人間の持つ基本的な精神機能について学び、代表的な精神障害の特徴や症状について理解する。			
14	代表的な精神障害の理解②						
15	【演習】「問題」とは何か、危機と喪失			支援における「問題」の意味について考える。			
16	代表的な精神障害の理解③			代表的な精神障害の特徴や種類、要因、症状などについて理解し、対応や治療法、近年の状況について学ぶ。			
17	代表的な精神障害の理解④						
18	代表的な精神障害の理解⑤			また、カウンセリングにおいてカウンセラーが行う質問の一般的な基準について、演習を通して理解する。			
19	代表的な精神障害の理解⑥						
20	代表的な精神障害の理解⑦						
21	【演習】良い質問・良くない質問、質問の一般的基準						

22	カウンセリングの基礎知識①	<p>カウンセリングの目的とアプローチの種類、ロジャーズによる来談者中心療法における治療の6条件等カウンセリング技法の基礎について学ぶ。</p> <p>また、クライアントからの質問の意味とその応答の仕方と要素について、演習を通して学ぶ。</p>
23	カウンセリングの基礎知識②	
24	カウンセリングの基礎知識③	
25	カウンセリングの基礎知識④	
26	カウンセリングの基礎知識⑤	
27	【演習】質問への応答、応答の要素	
28	心のケアと治療①	<p>主要な理論モデルと心理療法について学び、心のケアにおける注意点等について理解し、授業の要点の振り返りを行う。</p>
29	心のケアと治療②	
30	まとめ	

授業科目名	教育方法論		担当者	町田洋介							
			実務経験								
教科書	『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣アルマ	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法				
		2									
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	講義				
30											
授業概要	教育方法の定義とその意義について理解し、教育目標・教育内容の設定、教材の活用、実践の構想、実践の評価という教育過程とその相互の関係性についての理解を深める。また、教育・保育現場におけるさまざまな課題を解決する教育方法や学習理論、情報機器とその活用について理解する。										
学習到達目標	教育方法の歴史から、教育方法の意義とその背景にある子ども観・教育観とその思想について理解する。実際の教育・保育活動を計画するにあたって必要な、目標・内容の設定、題材・教材の活用、実践の計画・構想、実践の評価という過程それぞれについて理解する。教育方法や学習理論										
評価方法	レポートおよび筆記試験による										
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など							
1	教育方法とは何か			教育方法とは何かについて理解する							
2	教育方法論の授業で学習する内容の概要について										
3	教育方法の歴史と展望(1) 西洋における教育思想と教育方法			教育思想が教育目的をどのように捉え、その実現のためにどのような教授理論や教育方法が考え出されてきたかについて理解する							
4											
5	教育方法の歴史と展望(2) 近現代の教育思想と教育方法										
6											
7											
8	教育方法の歴史と展望(3) 日本における教育思想と教育方法							日本の教育制度が近代化する過程で、西洋から受容された教授理論や教育方法がどう変化したか理解する			
9											
10											
11	学習とは何か 学習理論とそれに基づく学習方法			教育心理学の知見による学習理論について理解する							
12											
13	学力とは何か 学力の捉え方と高め方			学力のモデルと学力を高める方法について理解する							
14											
15	教育・保育活動の構成について			教育・保育活動のサイクルについて理解する							
16											
17	教育・保育活動における目標と内容の設定										
18											
19	教育・保育活動における教材・環境の設定										
20											

21	教育・保育活動における授業・活動展開の構想	教育・保育活動のシナリオについて理解する
22		
23	教育・保育活動における分析と評価	
24		
25	教育・保育における情報機器の活用	
26		
27	よりよい教育方法を目指して	教育者・保育者としての力量向上に向けた取り組みについて理解する
28		
29	教育方法の課題とまとめ	まとめ
30		

授業科目名	情報発信の技術		担当者	川村浩之						
			実務経験							
教科書	『つくりたい！がカタチになる 学生のためのOfficeスキル 活用&情報モラル』noa出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法			
		1								
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	演習			
30										
授業概要	演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作、情報発信に関する各ソフトの基本操作学習します。									
学習到達目標	ワープロ・表計算ソフトを中心にその他ソフトの基本操作ができるようになる。									
評価方法	授業態度や提出課題、授業内試験等を総合的に評価する。									
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など						
1	情報モラル・情報セキュリティについて			情報を取り扱う上での注意点を学ぶ						
2	【Excelでのデータの整理】 数値データの整理、整理したデータの利用、ルールに基づくデータ整理、別シートのデータ利用			成績データを使って情報を整理する						
3										
4	Excelでの応用問題の作成			ボーリング大会の結果を整理する						
5										
6	【Excelでのデータの資料化】 数値データの整理、グラフの作成、情報をまとめる、見栄えを整える			成績データを使って資料化する						
7										
8	Excelでの応用問題の作成			ボーリング大会の結果を公表する資料を作成する						
9										
10	【Wordでのチラシの作成】 タイトルと主催者名、本文、詳細内容、ポイントとなる文、見栄え			ビジュアルを工夫して、参加を勧誘するチラシを作成する						
11										
12	【Wordでの応用問題の作成】			部員募集のチラシを作成する						
13										
14	【Word、Excelでの画像の利用】 インターネット検索による画像取得と注意点、画像のレイアウトオプション、画像のトリミング、画像の背景の透明化、画像等の重なり、画像等のグループ化			インターネットで検索した画像を画像編集アプリでの加工と保存を体験する						
15										
16	【テキストボックス等での文書作成(応用)】 余白の調整、テキストボックスの挿入・文字設定・塗りつぶし・枠線			次の文書を作成する ・遠足のお知らせ ・保健だより ・クラスだより						
17	図形の挿入・塗りつぶし・枠線・頂点の編集									
18	揃えと配置									
19	【総復習 WordとExcelを利用した文書作成】 表や表を含んだ文書を作成するときに、二つのソフトを使い分けるポイント 計算機能の有無 長い文章の有無 行間隔のコントロールの必要性			以下の文書を作成する ・保育所実習指導案 ・教育実習指導案						
20										
21										
22										

23		
24	【PowerPointによるスライド作成】 スライド作成の注意点、設定、トピックスに分ける、詳細内容 見栄え、見せ方の工夫、発表の準備	ライブイベントの提案資料を作成する
25		
26		
27		
28	応用問題の作成	個人情報に関するプレゼンテーション資料を作成する
29	まとめ	2年間のまとめのレポートを作成する
30	教育現場におけるICTの活用と展望について	最新の実例を含めて、ICTの活用を考える

授業科目名	造形表現論		担当者	芳賀哲			
			実務経験				
教科書	『保育をひらく造形表現』萌 文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	選択必修	講義
15							
授業概要	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」等をふまえて、造形表現を理論的に学び、子どもとの関わりの中で展開する方法を探る。						
学習到達目標	造形表現の重要性を知り、子どもの気持ちに適った働きかけが出来るようになる						
評価方法	レポート課題および期末の筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	「なぐりがき期」～「象徴期」までの幼児の絵画の発達とその援助			「なぐりがき期」～「象徴期」までの幼児の絵画の味方とその援助について学ぶ			
2	「図式期」の幼児絵画の特徴とその援助			「図式期」の幼児絵画の理解とその援助を学ぶ			
3	幼児のものづくりを考え、環境や準備、援助などを考える			幼児のものづくりを理解し、適切な援助が出来るようになる			
4	絵を描くことへの導きについて考える			模擬指導を体験し、よりよい働きかけを知る			
5	幼児のものづくりと働きかけを考える						
6	造形あそびの楽しみについて学ぶ			子どものひらめきに寄り添い、援助できるようになる			
7	造形の構成と色彩について学ぶ			構成と色彩の基本がわかる			
8	モダンテクニックについて学ぶ			モダンテクニックの種類と子どもへの応用方法がわかる			
9	幼児の造形指導のねらいと内容、援助			幼児の造形指導のねらいと内容、援助を理解する			
10	西洋絵画の歴史(ルネッサンスまで)を学ぶ			西洋絵画の歴史と作家の人生から、表現とは何かを考える			
11	西洋絵画の歴史(印象派まで)を学ぶ						
12	西洋絵画の歴史(近代)を学ぶ						
13	美術教育の歴史について学ぶ			世界と日本の美術教育の流れがわかる			
14	造形活動の環境づくりについて学ぶ			環境づくりや導入の方法がわかる			
15	幼児教育の観点から、造形指導の役割を考える			幼児の表現と造形について学ぶ			

授業科目名	保育教材研究		担当者	工藤愛美・小松千晶			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『笑顔いっぱい！あそびのレシピ』大学図書出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	演習
30							
授業概要	教材の選定、準備、活用の際に必要となる、素材や道具への理解、子どもがそれに取り組むときに生じる困難や味わう経験についての理解を高めるための着眼、試行、探求の方法を実際の作業を通して具体的に学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を行い、体験を通して教材に対する知識理解を深める。 ・保育における教材などの作成と活用、環境構成や実際に保育を展開することができる技術を実践的に習得する。 						
評価方法	出席状況、授業内演習の取り組み、課題提出等による総合評価。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	<さまざまな視覚的保育教材を知る> ①エプロンシアター、手袋シアター ②スケッチブックシアター、しかけ絵本、かわり絵本 など			<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児教材の種類と演じ方・内容について知る。 ・保育に取り入れるイメージを持ちながら、子どもと楽しめる視覚的教材を考える。 			
2							
3	○オリジナルの視覚的保育教材を作る			<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン、ストーリーや絵画構成について計画し、子どもが喜ぶ教材を丁寧に作る。 			
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10	○作成した視覚的保育教材を使った保育を考える			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの反応を想像し、演じ方を工夫しながら、作成したものを適切に使用できるようにする。 			
11							
12							
13	<あそびの道具を知る>			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な市販の教材や手作り教材に触れ、それぞれのねらいや使い方を知ること、教材研究の重要性に気付く。 			
14							
15	<自分で作れる教材を考える> ○身近にあるものを使った手作り玩具について調べる			<ul style="list-style-type: none"> ・対象、ねらい、材料、遊び方などを調べまとめる。 			
16							
17	○身近なものを材料にした玩具を考え、作成する ○遊び方や活用方法を考える			<ul style="list-style-type: none"> ・これまで身に付けた知識や技術をもとに、想像を膨らませながら、手作り玩具の計画、作成、遊びの実践、振り返りを行う。 			
18							
19							
20							
21							

22		
23	<p><子どもの作品作りを考える> ○壁面製作、季節の製作、絵本を題材にした作品などの意義と効果</p>	<p>・保育における壁面製作、子どもの作品展示などの意義と教育的効果について理解する。</p>
24		
25	<p>○子どもの作品を取り入れることを想定した壁面を作成する。</p>	<p>・子どもの発達や環境構成等を踏まえて内容を考え、作成する。</p>
26		
27		
28		
29		
30		

授業科目名	保育実習Ⅱ(保育所)		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林、『教育・保育実習実技ガイド(保育実践シリーズ)』ひかりのくに	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	実習
90							
授業概要	「保育実習Ⅰ(保育所)」での学びを踏まえ、保育実践力を身につける。観察・記録・援助・関わり方を総合的に学び、指導計画の理解や指導案作成、記録に基づく省察等との関わりにおいてよりよい環境構成のあり方を習得する。保育士の役割と職業倫理を学び、自己課題を明確にする。						
学習到達目標	①保育所等の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。③保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。④保育士等の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。⑤保育士等として自己の課題を明確化する。						
評価方法	評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1～3	<p>保育実習Ⅰ(保育所)での学びを踏まえ、「保育の総合的理解」「個人差に応じた保育のあり方」「子育て支援について」等、学生の興味・関心を実習課題として取り入れた内容となる。</p> <p><参加・部分実習> ・実習Ⅰでの経験を踏まえながら、担当保育士等の指導のもとに積極的に参加する。</p> <p><部分実習> ・異なる時間帯の部分実習を3回程度、指導計画を立てて実践する。 例:「朝の集まり」「クラス保育」「昼食から午睡まで」「午睡からおやつまで」など</p> <p><全日実習> ・1日の指導計画を立てて、できる範囲内の時間帯の指導・援助を担当し、保育士等の支援のもとに実践する。 ・全日実習終了後は、反省会を通して、自身の不足部分や良い部分を明確にし、今後取り組まなければならない新たな課題を見出す。</p>			<p>保育所等の保育を実践し、個性に応じて適切な保育ができる保育士等として必要な資質・能力・技術を習得する。</p> <p>子どもをもつ家庭の福祉に対する理解を深め、子育てを支援するための能力を養う。</p>			
4～6							
7～9							
10～12							
13～15							
16～18							
19～21							
22～24							
25～27							
28～30							
31～33							
34～36							
37～39							
40～42							
43～45							
46～48							
49～51							
52～54							
55～57							
58～60							

61～63	
64～66	
67～69	
70～72	
73～75	
76～78	
79～81	
82～84	
85～87	
88～90	

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林、『教育・保育実習実技ガイド(保育実践シリーズ)』ひかりのくに	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	後期	選択必修	演習
30							
授業概要	「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。事前指導では、実習の意義や目的、指導案の意義や役割、指導案の形成を確認する。観察・記録・自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。事後指導では、保育を振り返り自己課題を明確にする。						
学習到達目標	・既習の科目で習得した知識や技術を基礎として、身に付けた知識や技術を再確認しながら実習準備を行う。 ・実習計画、観察、実践、記録、評価の方法や内容について理解を深める。 ・実習事後指導を通して実習の反省と自己評価を行い、新たな課題の克服を目指す。						
評価方法	保育実習(保育所)の事前指導・事後指導に関する提出物や取り組み状況、課題等による総合評価。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	1. 保育所実習の目的とその内容・実習生の心得 ・実習形態と準備、オリエンテーションについて			<ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的や意義、保育所・保育士の役割などを再確認し、学ぶべき課題を明確にしたうえで、自身の目標を立て実習事前準備等を行う。 ・保育所等の保育を実践するうえで必要となる技術の再確認や教材研究を行う。 			
2							
3	2. 子どもたちが喜ぶ「自己紹介」を作ろう ・スケッチブック、エプロンシアター、ペープサートなど 様々な教材を使った自己紹介を考え制作する。						
4							
5	3. 先輩たちの実習エピソード ・実習中の嬉しかったことや困ったことを参考に自己の特技や課題を明確にし、事前準備を行う。						
6							
7	4. 年齢別・保育のポイント ・0歳から6歳までの子どもの発達の特徴と、あそびの特徴、それに伴う保育のポイントを年齢別に再確認する。						
8							
9	5. 子どもの発達とあそび ・各年齢毎のあそび ・音楽あそび、造形あそび、運動あそびなど						
10							
11	6. 指導案作成のポイント・園の方針や全体的な計画との関係性について ・各項目欄の記入ポイント ・部分実習の指導案作成について ・全日実習の指導案作成について						
12							
13							
14							
15	<実習事前準備> ・各実習施設、個人の課題に合わせた個別指導を行う。			<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導のもと、実習までに必要な事前準備を行う。 			
16							
17							
18							
19							
20							

21	<p>実習事後指導・実習報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習お礼状の作成と振り返り ・実習で行った内容・反省事項・学んだことなどをまとめ各自発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場での実体験から、保育士を目指すうえで必要となる自己の課題を明確にし、克服できるようにする。
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28	<p><実習後の振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習全体を振り返った自己評価と今後の課題 ・就職に向けて 	
29		
30		

授業科目名	教育実習		担当者	工藤愛美・阿部美帆				
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある				
教科書	『教育・保育実習に役立つ部分実習指導案集』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法	
		4						
		時間数	こども科	2	前期	選択	実習	
180								
授業概要	<p>学校で学んだ知識や技術を基礎として、幼児教育の現場において実際に幼児と出会い触れ合う中で、幼児の行動や考えを具体的に把握する。また、それを通して幼児教育の理論と実践の関係について理解を深める。さらに、個々の知識や技術を総合的に応用する実践能力を養う。</p>							
学習到達目標	<p>①幼稚園等の機能や役割について体験を通して理解する。②幼児についての本質的および具体的理解を深める。③幼児教育者の職務内容や役割について、具体的体験を通して学ぶ。④学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論や技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。⑤教育という営みの歴史的・社会的意味を理解し、さらに自らの教育間の確立に努める。</p>							
評価方法	<p>評価票をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価とする。</p>							
時数	授業内容			到達目標・学習課題など				
1～6	観察実習				<p>1日の流れ・子どもの様子・幼稚園教諭の援助の仕方等を見て学び、これから自身が直接保育するに当たって必要な幼児の実態や保育の実際についての知識を客観的に把握する。</p>			
7～12								
13～18								
19～24								
25～30								
31～36	参加実習				<p>担当教諭の助手的な立場に立ち、その指示に従って保育に参加する。保育の流れの中に入り、担当教諭の意図を理解して、側面からその活動を手伝いながら幼児と接することで、幼児を理解し、保育の仕事に慣れ、保育者としてのあり方を体験的に学ぶ。</p>			
37～42								
43～48								
49～54								
55～60								
61～66	部分実習				<p>観察実習と参加実習で学んできたことや体験してきたことを踏まえて、自ら指導計画を立てて実際に保育を展開する。</p> <p>1日の保育の流れの中の一部を担当する。(日課となっている活動やその日の中心的活动など)</p>			
67～72								
73～78								
79～84								
85～90								
91～96								
97～102								
103～108								
109～114								
115～120								

121～126	全日実習(責任実習)	<p>観察実習、参加実習、部分実習で学んできたことや体験してきたことを踏襲し、登園から降園までの全保育活動の指導計画を立てて環境を構成し、責任を持って保育を展開する。また、実施後は振り返りを行い、今後の保育活動に活かす。</p>
127～132		
133～138		
139～144		
145～150		
151～156		
157～162		
163～168		
169～174		
175～180		

授業科目名	教育実習事前・事後指導		担当者	工藤愛美・阿部美帆			
			実務経験	保育所で保育士として勤務経験がある			
教科書	『教育・保育実習に役立つ部分実習指導案集』萌文書林	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	こども科	2	前期	選択	演習
	30						
授業概要	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、自分の課題や努力目標を明確にする。						
学習到達目標	1. 実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。 2. 実習を終えて、再度、教師の役割を確認する。また、実習での学び・成果を確認し、これからの課題や目標を明確にする。						
評価方法	授業への参加状況、取り組み、授業内課題等の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	○実習の意義と目的			・教師の役割や幼稚園教育の基本と特質について学ぶ。			
2	〃			・保育者としての職務に専念する義務や守秘義務などの倫理について学ぶ。			
3	○実習生としての心構え			・実習に臨む姿勢、態度や事前訪問(オリエンテーション)について学ぶ。			
4	〃						
5	○実習日誌の書き方			・教育実習簿の目的と記入内容について学ぶ。			
6	〃			・いくつかの記入事例を参考に、書き方や記入の際の留意点について理解を深める。			
7	〃						
8	○実践演習						
9	〃						
10	〃			・実習に必要な資料を集め、自己紹介、手遊び、読み聞かせ、ゲームなどの教材研究を行う。また、グループワークなどを通して実践力を高める。			
11	〃						
12	〃						
13	○観察・参加・責任実習とその流れ			・各段階の実施形態について確認する。また、各段階における具体的な実習内容と留意点について学ぶ。			
14	〃						
15	○教育課程・長期指導計画・短期指導計画 について			・幼稚園における教育目標を達成するために必要となる計画について再確認する。			
16	〃						
17	○指導案について						
18	・「遊びの指導」における指導案の作成			・指導計画とは何か、指導計画作成の実際について確認し、手遊び、絵本の読み聞かせ、ゲーム等の指導案を作成する。			
19	〃			・幼児の実態等を踏まえた指導案の作成について学びを深める。			
20	〃						

21	〃	
22	○学級担任の役割と職務内容について	・保護者支援や特別な支援を要する子どもへの対応等について理解する。
23	〃	
24	○実習の総括と評価、課題の明確化	・幼児理解に対する学び、保育者の援助活動に対する学び等について振り返りまとめる。
25	〃	
26	○実習報告会	・具体的な事例をもとに、実習での学びを共有する。
27	〃	
28	〃	
29	○これからの自己課題と努力目標について	・自己の実習目標と照らし合わせて自己評価を行い、卒業までの課題や努力目標について具体的に挙げる。
30	〃	

授業科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営		担当者	伊藤基・町田洋介			
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある			
教科書	『児童館・児童クラブテキストシリーズ:1「健全育成論」、2「児童館論」(第2版)、「安全指導・安全管理」、「ソーシャルワーク』児童健全育成推進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	選択	講義
		30					
授業概要	児童福祉の基本理念「健全育成」の考え方を理解すると共に、児童厚生施設の意義、目的を知り現代の子どもの健全育成上の課題について学ぶ。また、その理念を地域で具現する児童館・放課後児童クラブの機能と運営を理解する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童館、放課後児童クラブの機能と運営を理解をする。 生活の場でもある児童クラブの環境整備を理解する。 児童館、放課後児童クラブの現在置かれている問題点を考え、今後の展望について理解をする。 						
評価方法	①期末筆記試験 ②授業最終日の課題レポート						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			児童館・放課後児童クラブの機能を理解し、地域における児童館の役割を理解する。			
2							
3	児童福祉法の理念と健全育成			児童福祉法での児童館の位置づけについて理解をする。			
4							
5	健全育成の具体的な内容と遊びの健全育成の意味			健全育成を理解した上で、学童期の「遊び」の重要性について理解をする。			
6							
7	児童館・放課後児童クラブの変遷 ～その源流から現在の状況まで			児童館・放課後児童クラブの成り立ちについて理解する。			
8							
9	児童館・放課後児童クラブの概要と特性			児童館・放課後児童クラブの役割について理解し、地域における児童館の必要性について理解をする。			
10							
11	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能①			児童館ガイドラインの内容について、理解を深めて、地域から求められている児童館の必要性について理解する。			
12							
13	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能②						
14							
15	放課後児童クラブの「基準」「運営指針」「認定資格研修」			放課後児童クラブの設置基準を学び、専門性が必要とされる資格が必要になった経緯について理解する。			
16							
17	運営管理(法令遵守、子どもの権利、要望・苦情への対応、その他)			児童館での第三者委員会などの設置基準などについて理解する。			
18							
19	安全対策(安全管理・危機管理、防災・防犯、事故防止活動、他)			リスクマネジメントについて理解をする。			
20							

21	児童館・放課後児童クラブの環境構成	施設管理面から、子どもたちが安全に過ごすことができる環境整備について理解をする。
22		
23	児童館・放課後児童クラブにおける障害児支援	障害児児童の受け入れ態勢・配慮事項について理解をする。
24		
25	児童厚生員・放課後児童指導員の職場倫理	コンプライアンスを重視し、職場倫理を明文化することの重要性について理解をする。
26		
27	児童館・放課後児童クラブの課題と展望	児童館・放課後児童クラブの現在の問題点を理解した上で、今後の展望について理解をする。
28		
29	まとめ	児童館・放課後児童クラブの機能と運営についてのまとめ(児童館・放課後児童クラブの重要性についてレポート作成)
30		

授業科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容 と指導法Ⅰ		担当者	伊藤基			
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある			
教科書	『児童館・児童クラブテキスト シリーズ:1「健全育成論」、2 「児童館論」(第2版)、「安全 指導・安全管理」、「ソーシャ ルワーク』児童健全育成推 進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	前期	選択	講義
		30					
授業概要	児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画、利用者への対応、地域との関わりを学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。						
学習到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童及び保護者に関する支援の仕方を理解する。 ・児童館・児童クラブの1日の流れを理解する。 ・地域における児童館・児童クラブの役割と重要性について理解をする。 						
評価方法	①行事の企画立案評価 ②レポート作成・提出 ③期末筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			現在の児童館の状況と、歩んできた歴史について理解をする。			
2							
3	児童館・放課後児童クラブの1日(週、年)の流れと活動のねらい			児童館と放課後児童クラブの違いについて理解し、仕事の流れについて理解をする。			
4							
5	児童館・放課後児童クラブにおける遊びの環境構成			子どもたちの放課後における「遊び」の重要性について理解すると共に、安心・安全に生活できる環境整備について理解をする。			
6							
7	遊びを通じた支援の実際(プログラム作り、具体的展開、支援法)			具体的な遊びを通じた子どもたちの発達について理解をする。			
8							
9	遊びを通じた児童の健全育成			「遊び」がどのように健全育成に繋がるのか、また、学童期の「遊び」の重要性について理解をする。			
10							
11	児童館・放課後児童クラブにおけるグループワーク			児童館・放課後児童クラブにおけるグループワークについて理解をする。			
12							
13	児童館・放課後児童クラブにおけるケースワーク			児童館・放課後児童クラブにおけるケースワークについて理解をする。			
14							
15	小学生の仲間づくり・居場所づくり			学童期の子どもたちの置かれている現状を理解し、児童館・児童クラブがどのように仲間作りの支援をするか考える。			
16							
17	子育て支援活動			子育て支援サークルなどについて学び、児童館で地域の子育て世代の支援をどのようにアプローチするのか理解をする。			
18							
19	ボランティアの育成・支援			児童館・放課後児童クラブでのボランティアの対応について理解をする。			
20							

21	児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援	生活の場でもある放課後児童クラブで、子どもたちに対する支援の方法について理解をする。
22		
23	保護者・学校・地域との連携	学校や保育園など、子どもの子育てに関する関係機関と連携をとり、支援の連携について理解をする。
24		
25	子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案(演習)	地域連携を考えた児童館行事の立案
26		
27	企画発表会、講評	企画の発表
28		
29	まとめ	子どもたちの居場所作りを考えた上での、児童館・放課後児童クラブの重要性のレポート作成
30		

授業科目名	児童館実習Ⅰ		担当者	伊藤基・工藤愛美			
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある			
教科書	『児童館・児童クラブテキストシリーズ:1「健全育成論」、2「児童館論」(第2版)、「安全指導・安全管理」、「ソーシャルワーク』児童健全育成推進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	こども科	2	後期	選択	実習
		90					
授業概要	児童館・放課後児童クラブで実際に業務を体験することで、一日の流れ、利用者の様子、活動内容、職員の役割を理解する。また、地域との関わりや児童ソーシャルワークの実際について学ぶ。						
学習到達目標	・児童館・放課後児童クラブの一日の流れや、社会における役割などについて理解をする。・利用者と職員の様子などを観察しながら、利用者との関わりについて理解をする。・配慮を要する児童への対応や、支援の仕方について理解をする。・行事の組み立て方や意義を考え、企画の立案・プログラムの進行をする。						
評価方法	評価表をもとにした実習施設の評価と巡回指導者評価の総合評価						
時数	授業内容			到達目標・学習課題など			
1	① 観察実習 ・児童館・放課後児童クラブの一日の流れを理解する。 ・乳幼児親子の受け入れ準備や、開館のための準備(清掃など)を理解する。 ・職員の動きや、利用者に対する声掛けの仕方などについて理解をする。 ・支援を要する児童への対応について理解をする。 ② 参加実習 ・開館準備(清掃等) ・乳幼児親子受け入れ・対応 ・児童クラブ受け入れ・対応 ・自由来館児童(小・中・高校生)受け入れ・対応 ③ 部分実習 ・乳幼児親子対象 乳幼児親子に対する行事の企画立案及び、企画の運営を行う。 * 乳幼児親子行事の中の一部を体験(絵本の読み聞かせ・手遊び・パネルシアターなど) ・小学生対象 小学生を対象とする行事の企画立案及び、企画の運営を行う。 * ゲーム大会やお楽しみ会などの小学生を対象とした行事の立案・運営			児童館・放課後児童クラブの1日の流れを理解し、対象年齢に応じた環境整備について理解を深める。 乳幼児親子への対応や、放課後児童クラブ(自由来館児童を含む)への声掛けや、対応について理解をする。 配慮が必要な児童への対応を学ぶ。 自分自身で企画立案を行い、総合的な評価をし反省を行う。			
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

授業科目名	児童館実習指導		担当者	伊藤基・工藤愛美				
			実務経験	児童館で館長として勤務経験がある				
教科書	『児童館・児童クラブテキストシリーズ:1「健全育成論」、2「児童館論」(第2版)、「安全指導・安全管理」、「ソーシャルワーク』児童健全育成推進財団	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法	
		1						
		時間数	30	こども科	2	後期	選択	演習
授業概要	児童厚生施設の意義、目的を再確認し、実習において児童と関わるうえで必要な資質・能力・技能の習得に向けて実践的学習を行う。また、地域に社会に対する理解を深め、連携の方法や保護者への子育て支援についても学ぶ。							
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での目標を明確にして、目標達成のための手段を学ぶ。 ・実際の現場に出る前の心構えをして、現場での役割を明確にする。 ・乳幼児親子・児童などへの支援の仕方について具体的に学ぶ。 							
評価方法	実習事前指導・事後指導に関する提出物や取り組み状況、課題等による総合評価							
時数	授業内容			到達目標・学習課題など				
1	オリエンテーション			実習の目的や意義、児童館・放課後児童クラブの概要などを再認識したうえで、自分自身の目標を立て実習事前準備を行う。				
2								
3	保育実習Ⅰ・Ⅱの振り返りと自己課題の設定							
4								
5	児童館実習Ⅰの意義と目的							
6								
7	児童館の役割と社会的ニーズ							
8								
9	個別援助活動—児童の特性と発達に応じた関りや遊び①			集団に交じれない子どもたちや、配慮が必要な児童へのアプローチの仕方について学ぶ				
10								
11	集団援助活動—児童の特性と発達に応じた関りや遊び②			集団生活における集団遊びの重要性と特性について理解を深める。				
12								
13	子育て支援とその実際			児童館に来館した乳幼児親子へのアプローチの仕方や、乳幼児親子への支援の在り方について理解をする。				
14								
15	子育て支援とその実際							
16								
17	実習目標について			実際の現場に行き、自分が習得したい目標について明白にする。				
18								
19	記録の書き方と活用①			実習中の記録をとるための要点を理解し、記録の書く方を学ぶ				
20								

21	記録の書き方と活用②	
22		
23	実習中の心構え・諸注意 実習持参書類の確認	実習中の声掛けや、挨拶など注意点を理解する。
24		
25	事後指導について	実習をしてみて、自分自身の課題を見直す、そして今後の目標を明確にする。
26		
27	実習報告会と事後指導	
28		
29	まとめ	
30		